



11月22日(月)にたむら支援学校特別支援教育セミナーを実施しました。講演「資質・能力を育む各教科の授業づくり～指導と評価の一体化を目指して～」では、茨城大学教育学部教授新井英靖氏よりご講演いただきました。内容の一部を掲載しましたので、ご確認ください。

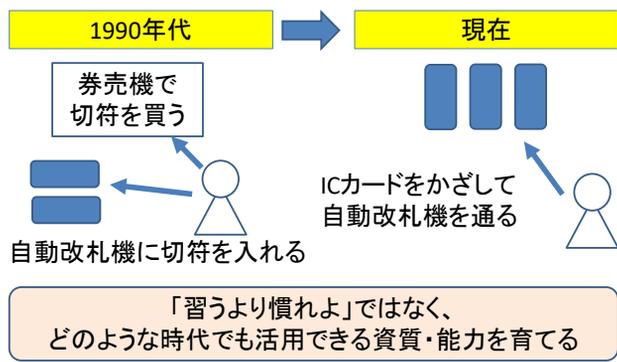
講演「資質・能力を育む各教科の授業づくり」

～指導と評価の一体化を目指して～

講師：茨城大学教育学部教授 新井英靖 氏

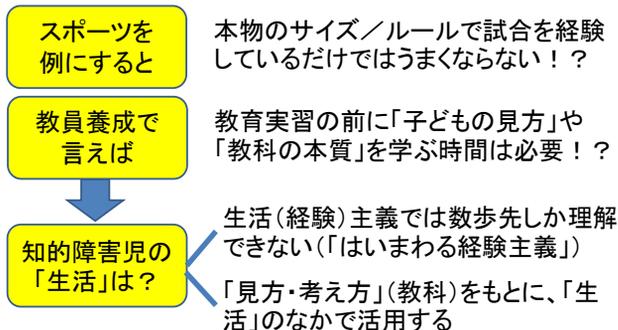
1 なぜ今、「資質・能力の育成」が必要なのか？

「スキルの獲得」から
育成を目指す「資質・能力」の獲得へ



○これまで、生活に生かすことができる力を教育していたが、AI等の発達により、今学んでいるスキルが使えなくなる時代がくる。時代によって、必要なスキルはどんどん変わっていく。予測困難な社会の変化に対応できる力やどの時代でも活用できる力が、資質・能力である。

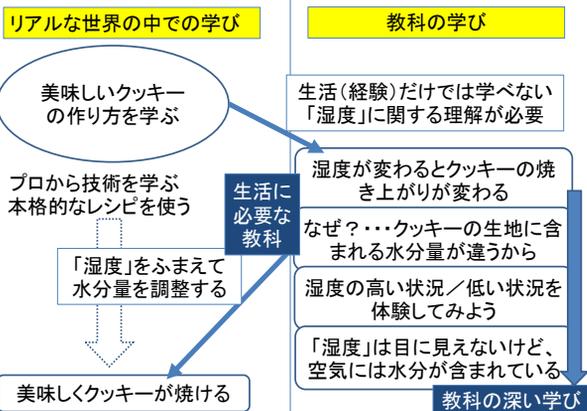
「本物の生活」を実際的に経験するだけで
「見方・考え方」が身に付くか？



○資質・能力は、教科の「見方・考え方」を働かせ深い学びを通して身に付くものである。あらゆる場面で活用、応用できる資質・能力を教科の学習で学んでいく。各教科で育む資質・能力は学習指導要領に明記されている。

2 なぜ今、教科学習が重視されているのか？

「生活に必要な教科の学び」と「教科の深い学び」



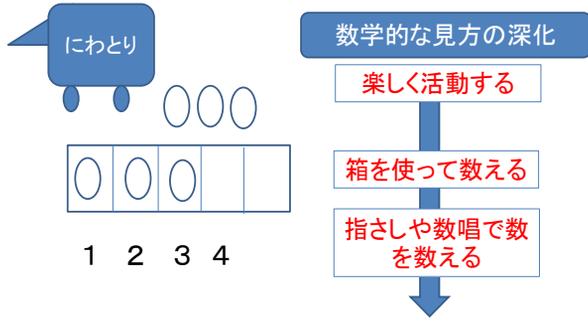
○クッキー作りの活動(例)で、そのリアルな世界の中での学び(作業学習や実習)には、教科での学び(生活に必要な教科の学び)との関連が必要である。それらの教科学習の中で湧き上がる問いや気づきを重ねていくことが「教科の深い学び」につながる。「教科の深い学び」を通して、生活(経験)だけでは学べないことを、自分で考え追求することで、活用、応用できるものになっていく。

3 見方・考え方を働かせる授業づくり

見方・考え方を育てる授業とは
—「深い学び」に至るプロセスを創り出す—

例

にわとりが卵を産む → ストーリー(状況)の中で「卵はいくつ生まれた?」



○児童生徒が「参加してみよう」と思う状況を考え、楽しく活動できるようにする。そして、**興味ある活動内容がいつしか教科的な「見方」へ変わる**ように授業を展開していく。

「深い学び」となる授業に共通すること

教材世界にのめりこむこと

→ 夢中になって学習活動に没頭するなかで想像力が育つ

実感をもって「わかる」こと

→ 身体的・感覚的に「わかる」なかで深く理解する

問題を解決する力が身につくこと

→ 必要な情報は何かを考え、正しい情報であると判断し、解決方法を考える力が育つ

授業改善は「視点」をもって取り組むこと!

○夢中になって学習活動に取り組むことができる教材等で、実感をもって「わかる」なかで理解を深めていく。それらを通して、**必要な情報は何かを考え、解決方法を考える力が育つ。**

4 目標に準拠した評価の方法

評価規準(例)

(「聞くこと・話すこと」/小学部1段階)

知識及び技能

身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じることができたか
(各教科等編, p82の「内容」から抜粋)

思考力、判断力、表現力等

伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すことができたか
(各教科等編, p85からの抜粋)

●自分の好きなキャラクターや動物、乗り物を選ぶことができたか

写真コメンテーターになろう

●自分で選んだ物の特徴を言葉や身振りで表現することができたか

●遠足の写真を見て、行った場所や誰が行ったかを指さすことができたか

楽しかった遠足の思い出を話そう

●遠足で楽しかった活動を思い出して、その時の活動を身振り等で再現しようとしたか

評価基準(例)

学習単元

評価基準(例)

学習単元に応じた評価基準の設定

「評価」の重層化とカリキュラム・マネジメント

一つの授業だけでなく、(教科等横断的視点で)さまざまな学習活動を通して、言語能力が育ったかを見る

汎用的能力

言語活動等を通して、国語で理解し表現する言語能力を育成する

評価規準

単元/学期を通して評価する各教科の見方・考え方

個別の指導計画などと連動させながら、中・長期的な目標をもとに評価する

評価基準

授業のなかで、具体的な子どもの様子から評価する。

教材に応じて評価する内容が異なる(例:写真に写っている物に関連する話をするなど)

○「評価規準」とは、単元の目標が大まかに達成できたかどうかを記したもので「単元の目標」に相当するものである。また、「評価規準」は1つや2つの単元では達成が難しいこともあるため、個別の指導計画と連動させて中・長期的な目標をもとに評価していくこともできる。「評価基準」とは、本時の授業の中で具体的にどの場面でどのように評価するのかを記したもので「本時の目標」に相当するものである。

○学習指導要領各教科等編の「内容」や「内容解説」をもとに、評価規準と評価基準を明確に設定して評価していくことで、**目標に準拠した評価**につながっていく。

おまけ! ☆ 講演後、校長室にて 新井先生からの裏話 ☆

○教科重視の考え方が主流になってきていることもあり、生活単元学習などの**各教科等を合わせた指導の売りは何か**を考えていく必要がある。必要性がなければすべて教科別の学習でよいことになる。そこで、**教科別に学んだ資質・能力を、生活単元学習の授業で活用する**など、総合的、探求的な授業をつくり学びを深めていくものにするすることで、生活単元学習の意味や必要性が出てくる。

